

第4期神戸市教育振興基本計画（素案）へのパブリック・コメント

No.	意見
1	<p>資料を拝見しました。いつもありがとうございます。</p> <p>我が子も小学3年生、下の子も春には小学1年生になります。</p> <p>学校ではたくさんの学びを得て、学習面だけでなく、主体性や自己形成といった団体の中でこそ学べる声かけや生活を先生方に支えられて育っていることに感謝しております。教職員の皆様におかれましてはご苦勞も多いことだと痛感しております。</p> <p>今、1番気掛かりなのはやはり、命についてです。自他ともに、児童同士はもちろん、長い目で自身を含む周りの全ての命を考えられる時間を設けていただけたらと願っております。</p> <p>「赤ちゃん先生」という事業があります。</p> <p>赤ちゃんと母親が、学校へ一年を通して何度も出向き、児童とふれあいを行います。ただ可愛い、愛おしいで終わるのではなく、守られて存在している命であること、言葉を発さない目の前の赤ちゃんの想いを想像することから、たくさんのことを学ぶ時間です。同行した母親は裏方に徹し、「赤ちゃん」が先生となる時間です。</p> <p>自分もそのように愛されて存在していること、他者の気持ちを理解する姿勢、親との愛着形成、など多くのことを感じることが出来ます。</p> <p>自分の成長を振り返るカリキュラムや、震災のタイミングで開催される場所もあると聞いております。ぜひ小学生で我が子にも体感させていただきたいです。</p> <p>学校によって開催されていたり、そうでなかったりと隔たりがあるようなので、ぜひ広がってほしいと願っております。どうぞご検討のほど、よろしくお願いいたします。</p>
2	<p>いじめ対策に加害者への対策が不足しています。教員による聞き取りやSCの短期間のカウンセリングに終始せず、中長期的なメンタルケアの実施が再犯を未然に防ぐ為に必須です。これは加害者のみならず被害者が安心して学校生活を送る為に効果的な方策です。具体的には加害者の他責思考・自他境界線のメルトダウン・加虐嗜好・精神疾患の有無・家庭環境等の複眼的なカルテを作成しケア計画を実施、見守りを継続して行っていく。加害者と被害者の関係性のみを視点に置いてしまうと最悪の場合は被害者への復讐心を育てかねません。被害者だけではなく加害者の環境や個人の問題に視点を置きたいじめ対策を神戸市に求めます。</p>
3	<p>近年、子供たちの宿題の量が少ないのが気になります。特に長期休みの宿題の量が少なく、塾に通っていない子供たちは親の目の届かないところで、ゲームやスマホ、YouTube等に夢中になっていた印象です。また、主体的に勉学を・・・と持っていきたい気持ちはわかるのですが、実際は全く浸透しておらず、保護者が子供を指導するのもなかなか難しいのが現状です。塾に通っている子との学力格差がどんどん広がっている気がします。先生たちが宿題のチェックをするのが大変なのは理解できますので、長期休みの際など解答用紙を配っていただいて保護者がチェックするなど、教員の方々と二人三脚でやってくればよいと思います。仕事が忙しかったり、金銭面で苦しかったり様々な事情はありますが、勉強を教えるのが素人でも解答用紙でチェックくらいならなんとか行けそうな気がしますし、子供と学びと、向き合うきっかけにもなるのではと期待できます。</p> <p>また別の話になりますが、教育委員会の掲げるものと、現場の先生方の温度差がすごく気になります。こういうことは生徒にも保護者にも透けて見えるものですので、もう少し現場に耳をかたむけてもいいのではないかとと思います。</p>
4	<p>教員の方の待遇をよくしてほしい。教員による部活動はやめるべき。</p>

5	<p>・学校にのぞむことの項目に、先生の資質が子どものアンケートの上位4位に入っているのに、それに対する施策がないのが不思議です。子どもが授業方法、もしくは教職員の対応などに不満をいっている事実をなぜ掘り下げないのでしょうか？ 未来を担う子供が毎日楽しく学んでいくにはこの項目についても検討していく必要があるのではないのでしょうか？ 子どもファーストと言葉で言っているだけで、どのへんがファーストなのか、疑問が多いです。 子供が外で遊ぶことを推奨していると思いますが、近所の公園はボールで遊んでいると近所の住民に怒られ、放課後の学校は開放されず、どこでのびのび遊ぶことができますか？ 学校は校舎の全面改修と称して子どもの大事な運動場を教職員の駐車場に一年間使っても何も思わないんですか？ 学生のうちの一年は社会人の1年とは重さが違うことを理解していますか？ 公共交通機関がある地域で車での通勤は必須ではないはずですが。 きちんと子どもと向き合ってくれてくれる先生がいることも存じておりますが、その反面程度の低い教職員がいるのも事実です。 教育委員会の方はもう少し現場を抜きうちで調査することも必要なのではないのでしょうか？ ・パソコンが普及し子どもに配布してくださり助かる点がある反面、長時間パソコンに向かう子供を叱らなければいけません。ベースは紙で学習する方法をこれからも続けていただきたいです。 ・最後になりますが子供は大人が思っている以上に教職員を見ています。 先生と呼ばれる立場を理解して子どもと向き合っただけだと助かります。 また中央、灘、東灘区などと西、北区とで環境等に大きく差異が生まれたいことを望んでいます。 これからも神戸の子どもが楽しく過ごせるようにお願いします。</p>
6	<p>2年生の子どもが小学校に通っております。 先生方はとても真摯に子ども達と向き合っており、子どもも楽しく通っておりますが、今の教育方針に2つ疑問を持っています。 一つ目は運動会です。 コロナ禍で短縮、かつ簡素なものになっていますが、今後の取り組みもこのままなのでしょうか。特に上級生にとっては、持っている力の半分も出せていない勿体無いものになっているように思います。保護者の間でも、残念だと言う声、幼稚園の方が盛り上がっているという声を多く聞き、全くその通りだと感じております。組体操や騎馬戦など、ごく一部の強い意見が通ってしまい廃止になりましたが、大半の人や子どもは残して欲しい気持ちです。演技が華美、または無理なものにならぬよう、工夫次第で構成できる演技でありながら、それをなくしてしまったことはとても大きな損失だと思います（子ども達の心身の育ちに）目標を持って一致団結し取り組み、失敗や成功を繰り返しながら他人の気持ちにも気付き体も気持ちも強くなっていく。それが組体操や騎馬戦でなくても良い。大縄や団体演技などでも得られる、貴重な体験だと思っています。 その経験が、今の子ども達には与えてもらえなくとも残念に思います。今一度、運動会への取り組みと意義を考え直して頂き、教育に携わる者として自信を持って発信していきたく思います。</p> <p>二つ目は、教員の子どものかかわる時間です。 神戸市教育委員会があげられる資料を見ますと、とても立派なことを沢山書かれています。単純に、教員としてまず大切なことは子ども達とのかかわりだと思えます。教員を目指すのも、自分の担任だったあんな先生になりたい！という憧れからくるものが多いと思います。しかし、先生とのかかわりや一緒に過ごせて楽しかったという思い出が少なければなりたくない気持ちも薄れます。今教職希望者が少ないという背景には、忙しさに追われて子どもとしっかり向き合っただけの教員がどれだけいたか…に繋がるのではないのでしょうか。不登校やいじめ問題も、家庭では親と子どもの関係性が重要であるように、学校では担任と子どもの関係性にあります。学力を伸ばし、考える力を！という前提に、まずは1人1人と子どもと先生がもっと沢山過ごす時間を作ることが、信頼関係に繋がり、それが不登校や学級崩壊などを防ぐことになり、また子ども達の教職に憧れる気持ちに繋がると思います。仕事量の多さに忙殺されて、子どものことが後回しになれば本末転倒です。これは、学校職員の知り合いからとてもよく聞く言葉です。先生方はもっともっと子ども達との時間を過ごしたいと思っています。教職員として、どこに重きをおくのか…先生方がより生き生きと仕事ができる場であるよう心から願っております。</p>
7	<p>教職員の方々、子供たちの為に日々ありがとうございます。 すぐーるでは、教職員の過勤についての案内もありましたが、 部活動とかを担当されてる先生方の毎日の勤務時間は10時間を超えてくるものだと想像できます。 先生方の長期連休に対し非難の声もあるかと思いますが、生徒がお休みの春休み、夏休み、冬休みは可能な限りお休みして頂けないものかと思えます。 先生方もリフレッシュされたら、新学期から子供たちとの向き合い方がよりいっそう向上してもらえるものだとも思います。</p>

8	<p>コロナ禍を経て、1年生からタブレットパソコンを一台ずつ預かり、それを使っての授業が増えてきたこと、自主学習と言う、自分で課題を見つけて学びを深める趣旨の宿題が増えてきた事に不安を感じています。この1年間、6年生の我が子の宿題をしている様子を見てみると、知りたい課題を見つけるまでは良いのですが、パソコンで調べた知識をコピー&ペーストでノートに写すばかりで済ませており、驚愕しました。</p> <p>親の話を聞くのが疎ましい時期(思春期)でもあり、話しても聞く耳を持たないのも相まって、それが正しいと思ってしまっている事が怖いです。パソコンを与えるのであれば、コピー&ペーストする事と、課題を探求する事の違いを繰り返し伝えることをしておかないと、これから先、コピー&ペーストが「課題をしたつもり」になり、考える作業が身に付かないままになってしまわないか心配です。加えて、恐らく小中学校でしか体験できない貴重な「書く」体験の喪失も心配です。</p> <p>以上を踏まえて、パソコンを与える時期などを改めて議論頂きたいです。今回の意見募集にそぐわない意見でしたら大変申し訳ありません。</p>
9	<p>子供が小学校に通っています。アンケートの結果から、保護者は「確かな学び」の優先度が高い。であれば、小学校(中・高)を英検や漢字検定等の試験会場にして頂きたい。小学校の団体申込が可能で、子供が通う小学校で試験が出来るのであれば、学びの意識が増すと思う。周辺の小中高で持ち回りにすれば負担も少ないのでは? 保護者から検定に関わるボランティアを募り、保護者が率先して役割を担えば良い。出来ている学校と出来ない学校の差は何か? 出来ない理由があれば知りたい。週末に先生が数名出勤しなければならないかも知れないが、環境を整える事で学生や親の学びへの意識も高まるのではないかと。効果が現れるまで時間はかかるし、初めての取り組みは教員だけでなくどの職業人も億劫である。試してみる価値は大いにあると思う。保護者や地域が出来る事はどんどん発信して、頼って頂きたい。どの保護者も出来る事は協力したいと思っている。</p>
10	<p>いつも先生方をはじめ、子どもたちの教育、学校運営にご尽力いただきありがとうございます。</p> <p>私どもの子ども時代と比べると明らかに先生方への負担の大きさや学校教育についての難しさが問題になっているように感じます。</p> <p>子ども同士の関わり合い、家庭環境等もとても大事に感じており、一つ学校教育の一環として取り入れていただきたいプログラムがあります。</p> <p>「赤ちゃん先生プロジェクト」</p> <p>赤ちゃんとその母親が学校へ赴き、実際に赤ちゃんに触れ合いながら、生きるということ、命の大切さ、他人だけではなく自分も大事な命であることを学びます。また、中学校高校では赤ちゃんの母親という存在を通して、これからの自分やパートナーとの将来を少し考え出す機会となります。</p> <p>このプロジェクトは子どもたちだけではなく、赤ちゃんを連れた母親も自分の子育てを取り巻く環境を見直したり、地域とつながる機会も多くなり、孤独な子育てからの虐待や自死などもどどまる一助となることと思います。</p> <p>現在、学校ごとにこのプロジェクトを開催してる学校もありますが、ぜひ神戸市のどの子どもたちにもこのプロジェクトに参加してもらい、自分と他人、命、生きるということを考えるきっかけを作っていただきたいです。</p>
11	<p>垂水区在住今*年生の子供を持つ母です。ミニバスケットをしており、子供が通う中学校には部活がありません。バスケを続けたいという子供の意思があり、ただ家庭的に裕福ではなく、物価高騰がかなりの打撃を受けている家庭です。色々中学生になってから、子供の望むバスケットをさせるために調べ出したら、昨今の変化に驚いています。部活と同じように、週何日か練習させようと思うと、それはクラブチームに入れるしか方法がなく、月1万程度のお月謝が発生し、送り迎えも必要となる事へとても戸惑いを隠せません。垂水区は近隣校で合同練習のモデル地域となっていて、近くのバスケチームで合同練習に参加できるかと思っていましたが、自中学にバスケ部がないと参加できないとの事、それ意味ありますか? 拠点校はクラブ活動とみなさず、拠点校に登録しても、近隣校のグループ練習には参加できないと知り愕然としました。</p> <p>お金がない我が家のような家庭の子供には、やりたいスポーツを楽しむ事もできない世の中になった事に非常な憤りを感じています。</p> <p>貧困な家庭は部活動を通じてのスポーツ楽しみ、違うコミュニティに所属する事も許されないんだと思いました。</p> <p>子供は今まで、小学校に所属しているバスケットチームで週に3回練習して来ました。</p> <p>拠点校が**でされて、部活動が5時までとなってしまったために、小学校の頃のようにバスケをする事すら難しい状況です。</p> <p>隣にある中学校にはバスケ部がありますが、部活が理由では隣の学校に通う事が許されない。</p> <p>私は子供の可能性を潰すこの今の制度に疑問を持っています。</p> <p>拠点校に通う子は自校のクラブに所属しているとみなし、グループ学校での練習に参加する事を認めていただきたい。</p> <p>または、部活が理由で越境を認めていただきたい。どちらかを教師の働き方改革を進めるために、部活の時間が短くなり、部活動がなくなったのであれば、違う方法で子供達の可能性を伸ばす事を考え対策を練っていただきたい。と思います。</p>
	<p>1. 自校通級指導教室の設置について</p> <p>インクルーシブ教育への過渡期としての、自校通級指導教室であると明記すべきだと思います。目指すべきは、障害の有無にかかわらず、全ての子どもがともに学ぶ仕組みづくり。神戸市に、人が集まる教育の姿だと思います。</p>

2. ・英語の実践的なコミュニケーション能力向上

素案には、中学校卒業段階で CEFR※の A1 レベル相当の英語力を有する生徒の【割合】ということですが、割合を増やすということは、従来通り、皆同じレベルに引き上げる、ひいては子供の個性・個別対応（基本政策2）と相反するよう感じました。割合を増やすのではなく、CEFRの A1希望者を確実にそのレベルに達するように支援することが、基本政策1ではないかと思いました。

通訳アプリなど進化する現状で、英語を学びたくない、興味がない児童・学生が母国語の他にもう一つ言語を学ぶというには負担が大きすぎる。言語DX（デジタルトランスフォーメーション）のプロに翻訳の現状を確認してみるのも、必要なのかもしれない。

【割合】を増やすのではなく、英語を学びたい人に対応し、英語の学びを集中する。スポーツやりたい人、芸術・感性を磨きたい人など、学ぶ機会や場所を子どもと共につくっていく。

現場での皆さんの努力も知らず、理想ばかり申し上げて申し訳ございませんが、基本政策1とも、【割合】は相反することだと思います。

「【割合】を増やす」というのは、今までの詰め込み暗記学習とイコールのような気がして危惧してしまいます。

3. ・運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合

2と同様【割合】ではなく、各人・子供をみてからスポーツすることを支援するかしないかを判断されることを期待しています。

4. ・学校のルール等の見直し状況、子供への意見聴取の状況

基本政策1に非常に密接に関係している事項だと思います。子供【への】意見聴取ではなく、先生、地域、子供が当事者となって学校のルールを見直す。理不尽なルールを守るため、先生は、子供の学びという目的を見失いルールを守る守らないに終始している姿が見受けられます。理不尽なルールは、子供のやる気を削ぐまたは、学校へ行きたくなくなる一因にもなり得ます。

大袈裟だと思いますか？ そのように思っている認識が、子供との齟齬を生みます。そうなったら、どうやって子供に寄り添うのですか？ 子供は、一人の人間として尊重すべきです。

私は、小学生2人の親ですが、子供たちから、大切なことをたくさん沢山山ペンキョウさせてもらってます。そんな素晴らしい資質を持つ子供達と大人と何が違うのでしょうか。

例えば／服装ですが、パーカーや上着の前は必ず閉めるルール。ルールとして掲示するだけでなく、理由から説明し、不要論が出れば三者で話し合う。納得すれば、ルール変更なし。改善案があれば、採用し実施する。等々、いろんな展開があると思います。

実行するには、困難が伴いますが、神戸市が消滅可能都市にならないためには【子供・若者】が最重要課題です。神戸市教育委員会さん！！本気になってください！！！！

神戸市という、政令指定都市という地位に甘んじることなく、胡座をかくことなく、一緒に子供という天才たちとともに私が大好きな神戸で歩んでいきたいのです。

率直に意見を記しました。きつめの文章もあります。その点について、申し訳ございません。表現が未熟なことを、重ねてお詫び申し上げます。

- ・有識者に応用行動分析について詳しい人を入れて欲しいです
- ・行動を教える、音声言語やそれ以外の拡大代替コミュニケーションを教える、問題提起行動の相談に関して、特別支援学校に行動分析士によるコンサルテーションを導入して欲しいです(知的、肢体不自由等障害種別に関係なく必要です)肢体不自由の場合、行動分析士と理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の連携もあると尚良い
- ・教員はポジティブ行動支援、応用行動分析、PECS※というものがあることを知って欲しい(研修に必須にしてください)
- ・特別支援教育のICTは文科省のICT活用アドバイザーの活用もして欲しいです。
- ・個別支援計画を立てるのにアセスメントが正しく出来てないと支援計画が立てられないのと、間違った方向に進んでいき結果的に問題提起行動が出て子供の行き場がなくなる、制限されるなど本人が困ることになるのでそういう意味でも応用行動分析やPECS・体の発達については最低限学んで欲しいと思います。もちろん学校にだけ任せるとはならず家庭との協働は必須だと思っています。今現在、授業を拝見していて難しすぎる、簡単すぎる課題や集団授業、永遠に先生が手伝ってしまっていて時間が勿体ないなど残念に思うことがあります。

13	<p>我が子には時間的に間に合わないと諦めています、個別の課題やコミュニケーション力を育てるよりも学習指導要領に従って授業をすることが目的になっていないか気になります。こういう学習をして欲しいと計画を立てる際をお願いしたところ、神戸市から新しく学習指導要領というものが出来て満遍なく授業をやれと言われてるので個別に合わせて出来ないと言われてました。(例えば第二次産業の授業で、パンの製造工程を知って欲しいということでしたが、発語がなくその授業に興味を持って聞けて、理解ができるのか、それならば興味のあるものの要求等をできる機会を増やす方が子供のメリットになりその行動が習得しやすい)PECSや応用行動分析を知ってる先生は同じ学習指導要領を見ても解釈や授業のやり方は違うかもしれないなと思いますが、子供のための特別支援教育であって欲しいと思います。例えば医療なら心臓の手術をする医師が修行や解剖学や病気のメカニズムを勉強をせずに執刀するということがないと思いますが、学校はなんとなく自己流や感覚で教えているという印象があります。個別で意欲のある先生がお金と時間を使って学んでいるので差があるようにも思います。先人が苦労して研究した科学、教育委員会や学校で導入して欲しいです。それを知ってても誤学習をさせてしまうことはありますが、誤学習させていることに気づけるかどうか、特別支援教育の免許を持っているかどうかでなくそういう専門性を身につけて欲しいと思います。</p>
14	<p>教師の働き方改革を進めていく中で、行事の中止や簡素化が増えていくのが気になります。行事を簡単にすれば、教師の負担が減るので、簡単に働き方改革が進みますが、それは子供たちの楽しみや、行事に向かって一生懸命がんばるという体験を奪っていくことになっていきます。働き方改革だけではなく、熱中症対策、感染症対策などいろいろな面も考慮されての簡素化かもしれませんが、子供にとってプラスになるのか、子供に負担にならないかということが一番考えていただきたいです。学校事務員を増やすとか、クラスの少人数化、副担任を配置する、教師に時間外手当的なものを支払うとか、予算をかけることによってできる働き方改革もあると思います。そちらも併せて検討していただきたいです。</p> <p>また、子供たちにいろいろな体験をさせるのは個人では難しい面もあるので、学校から、歌舞伎、能鑑賞や神戸らしくジャズコンサート体験、靴工場見学などさせてもらえるとありがたいです。その体験の中から子供たちがいろいろな未来を描けるのではないのでしょうか？ トライやる・ウィークはとてもいい制度だと思います。</p> <p>それから、高校及び大学の無償化を早急を実現していただきたいです。</p>
15	<p>先ほど送信しましたが、追加です。</p> <p>タブレットの使い方についてご検討いただきたいです。タブレットだけのせいではないと思いますが、タブレットを思いだして急に視力が落ちたので、タブレット使用後、目の運動や休息をする習慣をつけてほしいです。学級閉鎖の時に神戸市内の他校でオンライン朝礼や授業をしているところもあると聞きます。せっかく配布されているので、一部の学校だけではなく、ぜひ活用してほしいです。調べ物に使うだけでなく、プログラミングの授業を小学生からして欲しいです。SNSのルールやマナーもチームズなどを使って体感しながら併せて教えてください。活用して欲しい一方で、字を書く機会が減っていくとせっかく覚えた漢字を忘れてしまうので、紙に書くことも大事にしてほしいです。</p> <p>「質の高い教育」の質の高さが何なのか具体的によくわかりません。学力の向上ももちろん期待しますが、子供たちが楽しいと感じ、もっと知りたいと思うような授業、子供たち自身でアイデアを出して実現していく力がつくような良いなと思います。学年ドッジボール大会やクラスのお楽しみ会など小さなイベントがたくさんあるとそんな力がつくと思います。</p>
16	<p>何度もすみません。再追加です。</p> <p>スクールロイヤーを配置するとういと思います。沖縄の事例でスクールロイヤーがクラブ活動の顧問もしていました。よろしくお祈りします。</p>
17	<p>基本政策5 / 地域とともにつくる開かれた学校に</p> <p>「PTAの加入自由化とその大々的広報」「学校施設でのPTA非会員とその子どもへの差別的とりあつかい(実費徴収をふくむ)の禁止」「PTAなどの外部団体に学校施設を使用させる際に、その団体の運営状況を定期的に監査する(任意なら法律なしに調査できる)」「監査を拒み続ける団体や運営が不適正な団体には、学校施設の使用を不許可にして運営の適正化をうながす」を追加していただきたい。</p> <p>PTAなどの外部団体が学校施設を使って自由勝手に違法な活動をつづけ、たとえば学校も共犯となってPTAへの事実上の強制入会と非会員への差別的取り扱いをすることで、保護者と子どもに大きな被害が発生している。そのために子供を産まない女性が増え、少子化に拍車をかけている。</p> <p>PTAの任意加入を大々的に広報している明石市は、若年世帯が増加している。また、PTAの加入自由化を教職員にも適用し、それを大々的に広報すれば、教職員の志願者が増加することは間違いないであろう。</p> <p>PTA等の外部団体の運営適正化は、神戸市の人口減少と少子化と教員不足を解決するための大きな施策となる。</p>

18	<p>基本政策5/地域とともにつくる開かれた学校について、 兵庫運河の目の前にある和田岬の小学校では、「運河」について小学校の間、地域の人々の協力のもと、校長先生たちが率先して、子供達と学び続けている取り組みが素晴らしいと思い、これをそれぞれの学校で積極的に行ってほしいです。 自分たちの街について知り、体験し、地域の人や先生たちと学び成長し続けることはとても楽しそうで、「その学校だからこそできる授業」をぜひ神戸の他の地域でもやって欲しいです。 我が家では、夏休みの自由研究は、自分たちが住んでいる街に関するテーマを決めて、商店街の人にインタビューすることを毎年続けています。 昨年は、「地蔵盆」について調べて、町の人たちにお話を聞いてまわりました。長田では日本でも有数の地蔵盆の文化が残っている町なのに、「長田の地蔵盆」について書いてある資料や文献などはほとんど存在しないことにショックを受けました。今まさに消滅しかけている大切な文化です。 このまちの魅力を知り、歴史を感じて、また、今解決すべき課題もたくさん見つかります。地域の人たちとの関係が世代別で薄れてきていることで、高齢者から子育て世代、その子供達に伝わっていないことが多すぎると感じます。 まずは、学校の先生たちが、その地域の魅力や課題を知り、地域の人たちと協力して、その課題解決のために子供達と取り組んでほしいと切に願っております。 元気いっぱいの子供達から、親世代に伝わり、地域全体が寄り添える形になってほしいです。 どんな小さなテーマでもいいと思います。(人、お店、まちづくり、環境問題、文化の継承など) 与えられた教育を指導するだけでなく、それぞれの地域、学校だけのオリジナルな授業内容を、1年生から6年生までずっと関わり続けられる、ともに成長し続けていける活動を取り入れられるようお願いいたします。</p>
19	<p>特別支援教育について 数年前になります。低学年から息子は学校に行けないでいます <input type="checkbox"/>LD(学習障害)の子を指導できる教師が居ないと教育委員会から言われました 当時の校長先生や支援級の先生方たちでさえ『合理的配慮』について知識も持っておられず、公平と平等の違いも理解されておらず残念でした。今後、特性のある子供たちが傷つくような指導はやめていただきたいです。 全教師が訓練や根性、努力の問題ではないことを学び理解し『支援や合理的配慮』をしていただきたいです。 現場に余裕が無い状態に見えたので外部から指導できる専門家に入っていただくなど経験の少ない先生をサポートできるシステムにしてあげてほしいです。 教育相談も学校を通すシステム(教師本人の希望があれば訪問と伺いました)も保護者からは言い出しづらいため支援が必要な子供に対しての指導方法を先生方に教える機会を定期的に徹底していただきたいです。 配慮や支援する先生の様子を子供達が見て多様性を学ぶことが多様性の理解や教育につながります。 いじめの根底となる考えも減るのではないかと考えます。 <input type="checkbox"/>適応指導教室についても『自学できる子』が利用できる、と伺いました 自学できる子は家に居ても自学できますので自学できない子をどうするかを考えていただきたいです <input type="checkbox"/>不登校児やその家庭に対しクラス担任が対応するのも合理的ではないとおもいますので心理カウンセラーさんや児童相談所だとか専門性のある方と連携でき、利用できる公的機関や民間施設の紹介などしていただけたら有難いと感じました そして講習会などされていますがフリースクールは高くてなかなか利用できません いじめや特性がある、ヤングケアラーや病気などの理由で不登校で教室に入れられない子供で希望する子にはオンラインで学びや他者(大人や同じような仲間)と交流を提供できるようにするなど精神的な居場所があるといいなと感じます どうかご検討宜しくようお願いいたします。</p>
20	<p>教育振興を語るのに、綺麗事を並べ立てるだけのビジョンでは困ります。子供たちを混沌とした情報社会の迷子にはいきません。 日本国に生まれ、神戸で育つ子供に教えなければならない事は極めて単純な事です。どうやって日本国を愛し、神戸を愛し、家族を愛し、友達たちを大切にしていけるのか。その基本形を理解させなければなりません。 そして、その上で他の多様性をどの様に理解し、認めていくかを議論していくような教育環境であって欲しいのです。 残念ながら、この計画には日本という国も、神戸という地域もありません。いったい何の計画なのですか？ 計画の背骨が見えないのです。たくましく豊かになって、何を指すのですか？ 是非ご再考願いたく、ここに記して具申致します。</p>
21	<p>フリースクールの無償化の希望 学校へ行けなくても、試験を受けれる体制 オンライン授業での登校を可能にしてほしい</p>

22	<p>基本計画について概ね賛成です。 以下に希望を記します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 『いじめ』という言葉ではなく、暴行・傷害・恐喝等の犯罪に当たるのだという意識付けを行ってほしい。いじめなどという軽い言葉で対処し、何事もなかったかのように過ごすことで成功体験を与えることになり、それらの犯罪行為は増長するのではないか。 道徳心が薄い子ども、礼節をわきまえない子どもが多くみられる。家庭での躾の問題もあるだろうが、教育にもしっかりと組み込んでほしい。 教員の独断による反日思想を生徒に押し付けないでほしい。正しい歴史、正しい資料を用いた授業を行うのは当然として、指定外の資料を持ち込み反日的な教育を行わせないよう、教員の意識向上を願う。 <p>また教員による生徒への犯罪行為には厳格な処分をお願いする。生徒に猥褻行為をしておきながら復職するなど以ての外。我が子に置き換えて考えてほしい。</p>
23	<p>1案 中学生の道徳学習の内容や伝え方、今一度見直しを希望する。 小学校高学年から中学生の3年間は急激に体が成長する為、心とのバランスをとる事が難しい時期（思春期）を過ごし、家庭では、親子間も難しい時期である為、第三者的立場の大人（教諭）の力が最も必要な年代で、「人として」「人間だからこそ」を考えたり、心を成長させる学習する時間は、生きる基盤であり最も重要だと考えます。</p> <p>2案 学校の括りではない分野からの特別講師による授業。 色んな分野で活躍する大人から得る学びは、心を豊かにすると考えます。 また、自己啓発に繋がると考えます。</p>
24	<p>教育の現実的な側面として、少子化であるにも関わらずいじめや不登校と呼ばれる子どもたちは増えています。 先生の負担は増し、精神的にしんどさを感じる教員は増え、成り手は不足しています。 理想高く改善を求めばかりで、要求が増え、ICTの活用により減るはずの仕事は2倍になって返ってきているとよく耳にします。</p> <p>まずは教育の仕組み自体を変えてはいかがでしょうか。授業を教える（知識を授ける）先生はクラスに1人、担任として必要でしょうか。</p> <p>それも毎年違う学年を持ち、多くの教科を教える必要があるでしょうか。</p> <p>子供を惹きつけるプロの教師から映像を通して学び、その間に取り残された子どもがいないか担任がケアする。または、子ども達の豊かな教育に必要な作業や仕事を時間内に終わらせるための時間に使う。</p> <p>学力や環境が合っていない子どもをきちんと見つけ、学校内にある別の居場所を提案し安心して学べる場を提供する。</p> <p>子どもたちにとって大切な先生の役割は、カリキュラム通りに進め、進度の合わない子どもたちを無理矢理あわせるために叱ったり、宿題をさせたり、テストにバツをつけることではないのではないのでしょうか。</p> <p>先生の心にゆとりが生まれ、子どもたちへの接し方が変わり、子どもの心が豊かになれば、いじめや不登校も減ると思います。そのためにも先生の処遇改善（給与を上げ、人数を増やす）と、学校教育そのものの仕組みを抜本的に変えていく（教科担任制、複数の先生で子どもを見る、授業のサテライト化、対話による授業）ことが必要だと思います。</p>
25	<p>同じ神戸市内なのに住む地域によって教育の格差があるのは疑問に感じる。 また小学校は7クラスの学校もあれば2クラスの学校もある。 少ないクラス数の学校に通う子どもたちが経験出来る事(クラブの種類等)があるのも教育としてどうなのか。</p> <p>2クラスの学校を統廃合し、教員を一つの学校に集約して教育の質をあげるべきではないか。 遠くなるようならスクールバスの検討も(神戸市内の幼稚園の送迎バスに協力を仰ぐ等)。 また神戸市には国際的なイメージがあったが、市外から編入し教育方針を知り、正直、がっかりしている。 各学校にネイティブの講師を常時配置しアウトプット出来る環境を持たせる。 神戸市立の大学(神戸外国語大学、神戸大学等)の学生の有志の方々に対して有償で、外国語を学ぶ楽しさや会話をする楽しさを伝えて貰う活動をして頂く。(ボランティア活動として就職時に企業にアピール出来るよう神戸市が積極的に制度の発信を行う)等、全地域を巻き込んで公立の教育の底上げを行って欲しい。</p>
26	<p>担任一人では大変ですが、しっかりと教育してほしいです。</p>

27	<p>中学*年生と小学*年生の子どもがいます。どちらも自閉症スペクトラム症と診断され、軽度知的障害があります。どちらも通常学級にはついていけなかったりイジメを経験したりして不登校になってしまったので、***支援学校に通っています。しかし、***支援学校には重度障害のお子さんも多く先生方の負担も大きく、重度の児童と軽度の児童と一緒に支援するのは難しいように感じます。軽度知的障害の児童だけを専門に扱う支援学校の存在が、必要ではないかと感じます。</p>
28	<p>素案の段階なのですが、抽象的で具体案に欠けているように思います。</p> <p>また委員構成ですが、〇〇会長、〇〇副会長など恐らく高年齢層の方々が組織されているように感じます。VUCAと言われる時代にはそういった方々よりも若く柔軟性があり、最新情報や最新技術に敏感な方も半数程度配置すべきではないでしょうか？</p> <p>また管理監督者ではなく、もっと現場の第一線で活躍される方の方がより実現可能性があり抜本的な計画になると思います。</p>
29	<p>自他を大切にするためには、まず子どもたちが大切にされる人権教育が必要と思う。教職員への人権研修の回数、内容を公表し指標にしてほしい。</p> <p>発達障害で不登校傾向の中学生の子どもがいる。中学校がいちばん選択の幅が狭い。夜間中学校を学齢の生徒にも利用できるようにしてほしい。</p> <p>教員の仕事から事務を切り分け、事務職員を増員して対応してはどうか。</p> <p>個別最適な学習環境を用意するために、障害や外国人であることなどの特別な理由はなくてもタブレット利用や宿題のやり方などが自分で最適な学び方が表明でき、選べるようになってほしい。</p>
30	<p>学校部活の地域移行が進んでいます。息子の通う予定の福田中にも部活が少なく、廃部になった種目もあります。</p> <p>子供がしたいスポーツをクラブチームで行うにあたって、今クラブチームを探して体験に参加していますが、そこで費用の面で大きな壁にぶつかっています。</p> <p>部活だったら必要ない、お月謝、交通費がかなり負担になる事を実感しております。</p> <p>クラブチームのお月謝は活動を支えるために必要な費用だとはわかっていますが、毎日のクラブチーム通いの交通費がかなり大きい事に驚いています。</p> <p>子供料金ではないので、かなり高額になります。</p> <p>何かクラブチームに通う交通費の補助などありましたら、とても助かります。</p>
31	<p>これまでの教育により、自己肯定感を持たず、自死する人が後をたちません。</p> <p>今後は、一部の歪んだ歴史や価値観を教育するのではなく、正しい歴史認識と伝統により、誇りを持って、力強く生きていける子ども達に導いて行って欲しいと思います。</p>
32	<p>「基本政策2/一人ひとりに応じたきめ細やかな支援」について</p> <p>不登校の子がいる家庭の一意見を聞いていただきたく送信いたします。</p> <p>まず、感覚過敏などにより、集団での生活がどうしても苦手な子がいることをご理解いただきたいです。</p> <p>感覚過敏とは刺激を普通の人の何倍にも感じてしまうことで、例えば聴覚過敏では音がうるさすぎると感じたり、視覚過敏では光がまぶしすぎる、触覚過敏では人と触れ合うのが極端に嫌で密集しているだけでストレスを感じたりします。普通の感覚では快適な環境も、そこにいるだけで辛かったりします。</p> <p>南の島に入れられたペンギンを想像してもらえるとわかりやすいかと思います。南の島(学校)は素晴らしくて何も問題がなく、そこにいる子どもたちもいじめなど何もなくても、ペンギン(普通と違う感覚を持つ子)は、いるだけで疲れきってしまったります。</p> <p>けれど子供はなんとかしてがんばろうとしますので、不登校になる頃にはエネルギーが全く無くなり動けなくなっています。</p> <p>代わりに教室や勉強法をそこで与えても、もう何をやる気力もありません。</p> <p>回復までとても時間がかかり、その間家で支える家族にも大変な負担になります。そうなる前に集団ではなく個別で学習する方法が認められてほしいと思います。</p> <p>思いつく方法としましては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のようにオンラインでの授業参加 ・諸外国のようにホームスクールで学びができるシステム ・フリースクールや家庭教師、塾など、その子がやりやすい勉強法が見つかった場合の補助 ・公的な学校に行かなかった場合も進学の際に不利益にならないこと <p>などができると、とても助かると思います。</p> <p>普通に当てはまらない子にも学びの機会を与えていただけるよう、切に願っております。</p>

33	<p>中学校の部活動の地域移行を教育計画に入れていただきありがとうございます。近年、部活動改革によってガイドラインが設定されたり、完全下校が17時になったことで放課後の時間に少し余裕が生まれました。しかし、以前として中学校の部活動について、平日も放課後週4回、1時間以上あり、土曜日も半日、公式戦等があれば全日、顧問として時間を費やさないといけない状況です。部活動にあてる時間を教材研究の時間に当てることができればより質の高い授業ができます。しかし、帰りのSTが終わって職員室にもどり、10分も休めないまま部活動の指導に行きます。もっと休憩をとって余裕を持って過ごしたいのですが周りの目が気になり休むことをあきらめます。土曜も顧問の都合で休みにすればよいと思いますが生徒、保護者の期待もあり休むことは難しいです。部活動を学校から切り離さない限り、現状では誰かが顧問をし、負担を強いられる状況が続きます。そのため、休日の部活動が地域に移行されると部活動の顧問を望まない教員の負担が軽くなります。地域移行を進めることに加えて、教員が部活動の顧問を引き受けるか受けないか選択できる制度の整備も検討していただけたらありがたいです。</p> <p>また、生徒の側面からも部活動の地域移行はメリットがあると思います。現状では競技によって部活動が設置されている数に差があります。地域クラブを設置することにより、学校の枠を超えて望んでいた競技を経験することが可能になると思います。そういう側面から合同部活動や新しい拠点校方式の検討をしていただけたら嬉しいです。</p> <p>繰り返しになりますが家庭の事情もあり部活動の顧問を望まない教員もいます。そのような教員にとっては部活動の地域移行はとても有意義な取り組みであり希望の光です。どうか今後も前向きな検討を続けてほしいです。また、奈良県の事例のように具体的に地域移行を始める年を明記するなど具体目標が設定されることを切に願っております。</p>
34	<p>基本政策 1 / 子供が主役のこれからの学びに<中学校の指定体操服(ジャージ、インナーなど)を令和の時代に適応したスタイリッシュなデザインに改革><子どもたちが市販のスタイリッシュな私服を自由に選んで着られるように、中学校の体操服を完全自由化>を追加掲載してください。</p> <p>学校指定の体操服のデザインは、昭和時代の古いままで、子どもたちが可哀想です。このまま学校現場の教師に任せてはいつまでもたっても改革できませんから、教育委員会がトップダウンで改革を進めてほしいです。</p>
35	<p>ICTの活用についてなんですが、</p> <p>コロナ流行期に整備して頂いたオンライン授業をもっともっと活用して頂きたいと思います。</p> <p>コロナが5類になる以前、自宅待機中で登校できない生徒に対して自宅から参加できるオンライン授業をして対応して頂いていました。</p> <p>長期間登校できない生徒には、1日1時間だけでもオンライン授業をして頂いて先生や友達と繋がれる事によって、精神的にすごく元気になったり気分転換になっていて、すごく有り難かったです。</p> <p>それを、インフルエンザ等の場合にも活用して頂けないのでしょうか？</p> <p>小学校に問い合わせたところ、「教育委員会での明確な決まりは無く、コロナでオンライン対応はできますが、インフルエンザの場合はオンライン対応できません」と言われました…。</p> <p>せっかくオンラインの整備がされて、子ども達もすごく喜ぶので、できればインフルエンザ等の場合にも、保護者や子どもが希望する場合(もちろん解熱後)は、オンライン対応して頂きたいと思います。</p> <p>また、不登校気味など、学校に行きづらい場合などにもオンライン対応して頂けないのかな…とも思います。</p> <p>ぜひご検討頂きたいです。よろしくお願い致します。</p>
36	<p>児童、生徒の人数が減る中、不登校の生徒数が著しく増加しているが何故増加しているのかの調査、分析が早急に必要だと思う。原因がイジメ、家庭環境にある場合、子供の生命に関わる重大な事案にもなり兼ねず、非行や事故、事件の発生になり得る可能性も高くなると思う。実際に家庭に問題があった児童の殺害遺棄事件が西区でもあったばかりだ。神戸市だけの問題では無いが自殺や中学生の薬物使用や性犯罪も増加しているのでは無いかと思う。</p> <p>教育現場だけでは対応出来ない部分が多いが、まず子供の生命、人権を一番に教育を考えなければならない。</p> <p>規律や押し付けの教育だけでは不登校抑制や心の成長を促す事は難しいと思う。規律についてはどうしてしないといけないか(した方がよい)を教えるのも教育の一環、押し付けでは無く興味の有る分野を伸ばせる為には、まず教員に対する教育方針の考えを変えなくてはならないと思う。</p> <p>一律に全体的に学力を上げるには回り道になるが昔の教育と違い、興味有る分野を得意にさせて自信を付け自発的な興味を広げる教育が良い、との分析が出ている事を教育方針を考える上で参考にして欲しい。</p> <p>イジメについて教員が把握するのが大事だが、防止の観点からも一般企業や学習塾でも当たり前になってきている監視カメラを学校内に設置する必要があると思う。教員の負担を減らす面も有るが、教員や生徒内での性犯罪増加も顕著な為である。また録画データは圧縮し学校外の場所に数年保存、録画抹消の権限は持たせず学校内で再生以外の操作は出来ないようにしておかないと意味がない。</p>

37	<p>全日制高等学校の特色化・魅力化と定時制教育の充実について意見します。</p> <p>何よりも先に、高校のPTAの強制加入と非会員差別をやめることをこの計画に明記してください。</p> <p>又、真に法令順守していることが分かるように、学校のホームページにPTAの規約、財務諸表、事業報告、入会手続などを公開してください。</p> <p>市立高校のPTAは、保護者全員に入会書類を提出させて、入会の意思がない保護者と書類を提出しなかった保護者は、呼び出されて入会を強要されます。高校は中学校までとちがってPTAに入会するのは義務です、入会をしなくてもPTAにお金を支払ってもらいます、お金を支払わないと生徒に不利益がある等と脅されます。</p> <p>全日制高等学校の特色化・魅力化と定時制教育の充実という前に、学校とPTAに法令順守させてください。重要施策を語るのはそれからです。</p>
38	<p>自律心や自己肯定感を育む子供が主体の学校づくりへの意見です。御影中学校の制服が新しくなるのですが、ほかの中学校では認められているリボン・ネクタイが、御影中学校では禁止されていて、シャツブラウスもモデル標準服とは異なるデザインになったことがわかって、楽しみにしていた子供も家族も悲しんでいます。神戸モデル標準服は、リボン・ネクタイをふくめてすべてデザインが統一されているのに、学校によってルールが異なるのはおかしいと思います。</p> <p>御影中学校の校則は、保守的な住民が多いせいかほかの学校よりも理不尽に厳しいことで有名です。制服のルールも、自律心や自己肯定感を育む子供が主体の学校づくりに反していると思います。ホームページに載っている神戸モデル標準服の写真の通りに子供が自由に着られるように、学校が勝手自由気儘に特別ルールを作らないように、教育委員会から厳しく指導してください。</p> <p>内申書で不利になるので学校に直接言えずに我慢していますが、保護者たちは皆怒っています。</p>
39	<p>・外国人児童生徒等に対する支援の拡充について意見</p> <p>一部の在日外国人団体が「『氏名』という表記は、氏を持たない韓国朝鮮人に対する差別である。」と主張しており、神戸市がその圧力に屈服して、学校現場を中心に「氏名」を「名前」に言い換える取り組みを進めていると聞いたが、法令（民法、戸籍法、住民基本台帳法等）で定められた用語を否定する行為であり、重大な問題である。</p> <p>そして、次のような情報がインターネット上で拡散されている。</p> <p>神戸市に圧力をかけたのは、***という神戸市立中学校の常勤講師であり、彼のバックには、日教組と民団、さらに韓国政府がついている。</p> <p>*らは、神戸市教育委員会と校長会に圧力をかけている。保身が第一の校長たちはびびってしまい、いいなりである。さらに、*らは、教材出版会社にも圧力をかけ、「氏名」欄を「名前」に書き換えさせている。教材出版会社は、校長たちからも書き換えないと採用しないとわれ、莫大な経費をかけて泣く泣く裏表紙等を取り換えている。</p> <p>そこで、神戸市教育振興基本計画に次のことを記載することを求める。</p> <p>その一 「氏名」は法令に定められた用語であり、差別性はなく、教育現場で使用することに何ら問題がないから、学校での表記はすべて「氏名」に統一すること</p> <p>その二 偏った思想を持つ在日外国人教師や在日外国人団体の圧力に屈することなく、神戸市教育委員会は「日本人（日本国籍を持つ者）の権利利益を最優先とする教育を目指す」こと</p>
40	<p>基本政策2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員1名につき、児童人数を減らす。 ・1クラスの児童人数の決定については、柔軟にしてほしいです。 <p>(現在、本校の6年生の1クラスの人数に対し、教室の広さも合っていないと感じました。机と机の間もきつきつです。)</p> <p>基本政策3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症対策として、体育館の冷房設備を強化する。現在、冷房が確かに効いていません。 <p>冷房がしっかりと効いた体育館は、子どもたちの運動時間が増えるのではと思います。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
41	<p>子どもの自己肯定感を高める、というのなら、子どもが安心して行ける学校にしてほしいです。</p> <p>安心の第一は対話です。</p> <p>子どもを指導しようとするのではなく、先生が子どもと対話できる時間を作れるようにしてほしいです。</p> <p>そのためには教職員を増やすということも計画に入れてほしいです。働き方改革をいくらしても、人が増えなければ何も変わりません。増やしてください！！</p> <p>校内サポートルームも対話ができる場所にして、きてくれてありがとうと、子どもを迎えてくれる人がいる場所にしてほしい。</p> <p>それでこそ自己肯定感も高まると思います。点数で見るだけの学校にしないでください。</p>

42	<p>”基本”計画としているためか、抽象度の高い形容詞・副詞での記載が多く、具体的なアクション記載がない印象です。このままでは「何となくでしか進まない」モットーに近い計画に存じます。この後に具体的計画が公開されるという理解で良いでしょうか。その他、気になる点を以下へ記載します。</p> <p>1 ページ「教職員の多忙化」が課題とは？ 忙しいことが問題なのでしょうか。問題は、社会通念を超える長時間労働の常態化かと思います。</p> <p>1 ページ 教職員が子供に寄り添う時間を確保すれば、「高い教育を提供できる」とした学術的根拠は？</p> <p>2 ページ 目指す人間像「心豊かにたくましく生きる人間」について 「心の豊かさ」は何で判別する？モチベーション要素は単一ではなく、個別性がある中で、教育者側からどのようにその要素と達成水準を判別するのか？ どのように判別するのか？</p> <p>2 ページ 目指す人間像について 「人間性」とは？ どのような性質をさしているのか？ 抽象度が高く、教育者毎に異なるため、それが明確にならない中で、教育ビジョンは明確にならないと考えられる。</p> <p>2 ページ 教育ビジョンについて、 「感受性」を元に主体性を高める方向性は良いが、知識量の不足が主体性の後退に繋がっていることが触れられていない。個々における知識量の増大が「思考力」の向上に繋がることも記載されていない。</p> <p>3 ページ 重点施策の「英語の実践的なコミュニケーション能力向上」について 日本語の理解度向上に触れられていない中で重要とした理由は？日本語向上が優先ではないか？</p> <p>3 ページ 基本政策2の「行きたくなる学校づくり」とは？ それぞれの児童において、「行きたい」と思える理由は千差万別。また感情の奥に隠れている場合も、言語として表現できない場合もある。 「行きたい」ではなく「居場所や役割が感じれる」ことこそが重要では？また、「誰一人取り残さない」といったSDGsのような表現だが、現在の神戸市の教育方針で本当にそこまでの「学びを保障できるのか？」学べなかったとする成果ラインはどの様に判別する？ 取り残された場合の責任はだれが取る？</p> <p>3 ページ 重点施策の多用な学びの確保について 学びの場の確保等の「等」とは何を指しているのか？ 場を確保できれば、構造的に不登校が解消されるという理論や経験則は何か？</p> <p>3 ページ 重点施策「いじめの早期発見」を本当に解消したいのであれば、学校中に監視カメラを付ければよい。 物理的な対応以上に、組織的・教育的な対応が優先される理由は何か？ 物理的・組織的・教育的な対応を同時並行することはできないのか？</p> <p>4 ページ 重点施策「児童生徒・保護者向けの分かりやすい教育相談窓口の充実」について、 「教育」についての相談窓口の設置は理解できるが、教職員が長時間労働の中、誰が対応するのか？ 仮に教職員以外の「スクールカウンセラー」等が対応できるとしても、スクールカウンセラーの役割や、どのような相談ができるのか？ の事例などが現実的に保護者に理解されていない</p> <p>4 ページ 重点施策「学校規模の適正化による教育環境の向上」について 教育環境の向上を妨げる原因が「必要教員不足」にあり、その原因が「需要側」では「育休・産休世代の増加」「病欠」、 「提供側」では「なり手の不足」という状況の中で、学校規模の前に「特別支援教室」の構造を見直すことはできないか？</p> <p>4 ページ 基本政策4はうまく的を射ていると感じる。</p> <p>5 ページ 基本政策5の重点施策「コミュニティ・スクールの推進～」について、いくつかの学校運営協議会はほとんどが報告会となっており、ある意味、「学校の子供への教育実践の評価を委員へ報告・相談する」といった様相であり、本当の具体的な対策まで検討までできていない（検討の深度が浅い）、会議の進め方も悪い。本当に開かれた学校を目指すのであれば、検討の時間が短すぎる。また、専門家が少ない。</p> <p>5 ページ 「選ばれるまち」との記載があるが、ほぼ全国平均での学力の中で、他の都道府県、政令都市と比べ、何をもって学力を伸ばすのか？ これまでと変わらない方針で本当に「選ばれる」の理由が見えない。</p> <p>5 ページ 学校づくりの指針「人がつながり ともに創る みんなの学校」について 保護者、地域に期待することが大きすぎる。学校教職員と、「教育」を仕事にしていない保護者と、それ以外の保護者との知識格差が大きく、学校運営協議会の会議自体の議論が深まらない。「会議に参加してもらいやすい保護者」ではなく、「教育についての知識と信条を持った保護者」に参加者を絞ったほうが良い。結局、情報交換会で終わってしまう。</p> <p>6 ページ 働き方改革の推進 2つの目標項目設定だけでなく、「教職員が自宅へノートPCを持ち帰る等の禁止」は既に推進されているのでしょうか。また、高齢者が増加する社会の中で「介護取得」についての目標が設定されていない。</p>
----	--

43	<p>「基本政策1 子供が主役のこれからの学び」</p> <p>・情報活用能力について</p> <p>「ICTの適正な利活用による情報活用能力を育むとともに」とありますが、GIGA端末を使いこなすことだけが情報活用能力を育てることではないと考えます。教育の情報化のなかに、「情報教育」「教科指導におけるICT活用」「校務の情報化」とあり、ICT活用を現場でいかしていくことは喫緊の課題であると認識しています。ですが、学校図書館の機能の一つに情報活用能力を育成する「情報センター」機能があることが抜け落ちていないでしょうか。</p> <p>探究的な学びでは、様々な形態の情報にアクセスし、収集し、整理分析をして、生徒自身の意見を作り上げていく過程で、試行錯誤しながら考えをまとめ、アウトプットしていきます。学校図書館が担う情報センター機能はその学習に大きく貢献できるはずですが。紙媒体資料とウェブサイト情報をどのように組み合わせるのか、情報収集と整理分析のためにはどのようなスキルが必要なのか、授業担当教員、司書教諭と学校司書が協議して進めていく必要があります。調べ学習は国語だけではなく、他の教科でも実施しましたが、なかなか全体に広がりません。情報があふれているなか、どのように情報を扱うのかという力は絶対に必要ですし、そこがなければ、探究的な学習はあり得ません。</p> <p>・想像力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進について</p> <p>読書をする生徒と読まない生徒の格差はどんどん広がっているように感じますが、さらに朝読の時間もなくなり、読む力の低下を非常に心配しています。</p> <p>勤務する**中学校では、ある教員の提案で「スキマ読書」「カバンの中に本を入れておいて、授業中でも課題が早く終わったら読んでもいいよと呼びかけをしています」ということを聞きました。現在のところ三分の一の生徒が自宅から本を持ってきて「スキマ読書」をしているそうです。</p> <p>また、図書委員が選んだ本を学習室に持っていき、「出張図書館」と題して本に親しむ取り組みをしている学年もあります。とてもいい取り組みなので、校内で共有し、学校図書館も支援の強化をしていきたいところです。</p> <p>例えば、自宅から本を持ってこれない生徒には、図書館の本を借りてね、こんな本もあるよというアナウンスができると思いますが、なにせ兼務勤務になり、勤務時間も限られていますので、教員との意思疎通も、業務遂行も限定的です。また、読書の定義について、文化審議会の答申にも出ていますが、小説のみが読書ではありません。各教科で教員から本の紹介をしてもらうだけでも活性化につながります。一つは生徒が本を手にしようとする可能性があること、あと一つは教員のリクエストによって、選書の視点が養われ、結果的に厚みのある蔵書構成にしていけることです。</p> <p>いずれにしても、読書の必要性についての共有を全市でさらに図っていただきたいです。</p> <p>「基本政策5 地域とともにつくる開かれた学校」</p> <p>私は、学校司書として勤務しながら地域の健全育成にも関わっています。</p> <p>昨年度末、学校運営協議会の委員は10年限りとするという方針が急に出され、当惑した委員は少なからずいました。しかも、丁寧な説明をした小学校に対し、中学校は最後の委員会で説明をされたとのことですが、私自身は研修で遅れて参加しましたので、あとから手紙のみが送付されてきたという状況です。</p> <p>学校運営に関わるということは、ベースにお互いの信頼関係あってこそですし、退任された方は主に地域諸団体の長であり、代わりの方をといっぺん一律にうまくいくとは思えません。</p> <p>神戸っ子応援団の会長として立ち上げから小中の校長先生と共に地域の方と関わりながら作り上げ、中学生のボランティア活動の支援もしてきましたが、コロナ後の応援団の活動に関して、中学校からは全く音沙汰なしです。また、これまでPTAを卒業した方の中から、地域住民として応援してくださる方がいましたが、共働きの家庭が増えてきたことでもあります。これからますます先細りしていくのではないかと懸念している方もいます。</p> <p>この政策については、非常に一方的だと感じます。最後にこの件についてはこれまで深く地域の活動に関わってこられた2小学校の地域の有志の方と共有していることを、申し述べさせていただきます。</p>
----	---

44	<p>II 計画内容</p> <p>(コメント)</p> <p>目指す人間像も教育ビジョンも、未来を担う児童生徒の健全な成長を願い、自律的に行動できる人間性豊かな人への成長を目標とした素晴らしいものだと思います。しかし、教育におけるICT活用に関して気になる記述がありましたので、コメントいたします。</p> <p>基本政策3／安全・安心で過ごしやすい環境づくり</p> <p>また、「子供たちの学習能力・情報活用能力の向上」のため、「オンライン学習等を進める基盤となるICT学習環境の更なる充実」を図ります。</p> <p>(コメント)</p> <p>「オンライン学習等を進める基盤となるICT学習環境」はなくても「子供たちの学習能力・情報活用能力の向上」は可能です。このような表現は、「オンライン学習等を進める基盤となるICT学習環境の更なる充実」しさえすれば、「子供たちの学習能力・情報活用能力の向上」が果たされるという短絡的な思考に陥り、本来考えなければならない教育の本質（ここでは「学習能力・情報活用能力」とは何か）から目を背けてしまうことになり兼ねません。</p> <p><重点施策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT学習環境の充実と教育データの利活用に向けた環境づくり <p>(コメント)</p> <p>子どもの長いスクリーンタイム（1時間以上）が、言語性知能の発達を妨げたり、学習成績を低下させたりすることを示す研究が多数あります（参考文献参照）。健全な脳の発達を妨げないようにするために、テレビ、スマホ、パソコンを含めた児童生徒のスクリーンタイムを1時間未満にする必要があると考えられる状況で、「ICT学習環境の充実」だけを謳っても良いのでしょうか。</p> <p>また、「教育データの利活用」のために、教員がデータの収集や分析をすることになれば、教員の負担が増すばかりです。そうかといって、これらの作業を外部委託すると、学校教育に合わない分析結果に教員が振り回されることになり兼ねません。</p> <p>III 計画の進捗管理</p> <p>■ICT機器の活用度調査（基本政策1～3関連）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業でのPC・タブレットなどICT機器の活用度 <p>(コメント)</p> <p>教育においては、ICT機器に限らず、教具・教材をどう使うかが重要であり、単にICT機器を使うことだけを評価すべきではありません。また、スクリーンタイムを1時間未満にして児童生徒の健全な脳の発達を促すことも重要です。</p> <p>現在使用されているタブレット・ドリルは、解法を考えたり理解したりするには不向きであり、児童は、算数では、わかっている回答入力の方法に悪戦苦闘し、国語では、アプリが認識できる程度にイイ加減な手書き入力を学習しています。いたずらにスクリーンタイムを長くし、児童生徒の健全な脳の発達を妨げる可能性のあるこのようなICT使用は直ちにやめるべきだと考えます。</p> <p>参考文献</p> <p>村田育也(2023)「GIGA世代 戦後教育史における最大の問題」福岡教育大学紀要第四分冊教職科編第72巻 p.153-163 福岡教育大学学術情報リポジトリ https://fukuoka-edu.repo.nii.ac.jp/records/2577</p>
45	<p>神戸市教育振興基本計画拝見しました。必ず織り込むべき事項は記載されているように思いますが、諸外国に比べての昨今の日本の科学技術分野の後退を思うときに、学校現場での理科教育振興や理系人材育成について一切触れられていないのは大変残念です。まして神戸市は医療産業都市構想を掲げ、先端技術を持つ医療用検査機器や試薬の民間会社もあり、研究助成や教育助成を行う規模の大きな財団もあります。そういった力を結集し、大きなトルネードとなって動くには教育現場の裾野拡大、教育現場からの底上げも必至です。基本計画こそそういったことを他都市に先駆けて盛り込んで原動力にいただけるチャンスです。これから日本を担う若い人材に対して神戸市だからこそできること、を目指していただきたいです。よろしく願いいたします。</p>

46	<p>長期にわたるコロナ禍のもと、教育現場では学校が閉鎖される期間やコミュニケーションの制限などが発生し、子どもたちは健全な育成に必要な人と人との交流を抑制されることとなりました。</p> <p>これから地域で育つ子どもたちにもっとも必要なことの1つは、人と人との交流の積極的な再開ではないでしょうか。その意味で、神戸市内にある複数の劇場・文化ホールは、子どもたちの人と人との交流を育む鑑賞と体験の拠点になる可能性があります。</p> <p>多くの人々が同じ場所に集まって深い感動体験を共有することは、人間の心の豊かさの原点です。子どもたちに向けた良質の鑑賞機会を用意していくことはすべての大人の役割です。ぜひ神戸市は様々な教育現場と連携して、神戸の子どもたちに多彩な舞台芸術を鑑賞できる機会を作っていただきたいと思います。そのことは子どもたちに大きな意味があると思います。</p> <p>その際、学校での体験型アウトリーチと劇場・文化ホールでの鑑賞との役割分担も大切です。</p> <p>従来は学校へのアウトリーチでは移動鑑賞教室のように作品の上演が主として行われてきましたが、鑑賞行為としては設備の整った劇場・文化ホールの方が良質な上演が期待できます。ぜひ子どもたちに、劇場・文化ホールでの優れた鑑賞体験を数多く用意していただきたいと思います。</p> <p>他方で、学校へのアウトリーチ活動は、子どもたちとアーティストが直に触れ合うことができる絶好の機会です。学校にアーティストが訪れる際は体育館等での簡素な上演ではなく、教室でのクラス単位程度での体験共有型として、コロナ禍で減少してしまった人と人との交流の活性化を図ることが望ましいと思います。芸術を追求することで人生の奥深さや多様性を知るアーティストとの交流は、子どもたちにとって大きな財産となるでしょう。</p> <p>ぜひ芸術文化の持つ多彩な創造性を活用して、教育現場の観点からも、子どもたちに心豊かな体験を数多く用意していただきたいと思います。</p>
47	<p>一人一人の育ちを大切にするために、思いに寄り添い共感していくことはとても大事な事だと思います。その育ちを支えるためには土台である幼児期の教育、保育が重要になってくるのではと思います。幼児期の取り組みについて、もう少し具体的に示していただければと思います。</p>
48	<p>第4期神戸市教育振興基本計画（素案）、興味深く拝見いたしました。</p> <p>以下3点について、ご提案いたします。</p> <p>1.理系人材の育成について</p> <p>現在、日本において次世代を担う理工系の人材育成は喫緊の課題です。国においても「大学構造改革と理系学生の活躍促進」など理系人材育成に取り組んでいます。神戸市においても初等中等教育の段階から理系人材の育成を掲げることが重要と思います。</p> <p>特に神戸市では医療産業都市構想があり、それを支える最先端の研究施設や大学、企業があります。また最近では宇宙戦略基金についてJAXAの説明会が神戸市の企業向けにあり、多くの企業が参加していました。それらを支える次世代を担う理工系人材の育成を市を挙げて行うことは神戸市にとっても企業、研究機関、大学にとっても非常に意義があることだと思います。</p> <p>また理系人材の育成において神戸では神戸大学が実施している高校生向けの「ROOTプログラム」や小中学生向けの「神戸みらい博士育成道場」があり全国でも先進的な取り組みを行っています。それらの取り組みと連携することで他の地域ではできない教育ができると考えます。</p> <p>2.社会教育施設を含む他機関と連携した質の高い教育</p> <p>神戸市にはバンドー神戸青少年科学館や神戸市立博物館やこども本の森など多様な社会教育施設があります。その中にはそれぞれの専門家がいます。その専門家と協業することにより、質の高い教育を行うことができます。また神戸市には大学や研究機関、企業も多くあります。それらとも連携し神戸市全体として未来を担う子どもたちを育てるという大きな方針を掲げることが重要と考えます。</p> <p>3.インクルーシブ教育（特にギフテッドへの対応）の方針の策定</p> <p>子どもたちそれぞれの困難に対応するインクルーシブ教育も喫緊の課題です。特にこれまで対応ができていなかったギフテッド（特異な才能と学習困難とを併せ持つ児童生徒、“2E（Twice-Exceptional）”の児童生徒）に対する方針を特別支援とは別で策定することは重要と感じます。これまでは特別支援もしくは通常学級のどちらかでの対応が多かったと思いますが、2Eの児童生徒は性質が異なるため、その枠組みで対応することが難しかったと思います。これまで学校生活で困難を抱えながら救うことが難しかった2Eの児童生徒に対して、新しい方針が策定されることを期待します。2Eの対応については上記に記載している社会教育施設や大学などと相性が良いため、それらとの連携が重要と思います。また次世代の人材育成にもつながる重要なことであると思います。</p>

基本政策1（子供が主役のこれからの学び）について。

校種で分断されずに、また、学校に閉じずに、子供から大人に向かう発達（、さらには高齢に向かう発達）を社会全体で途切れることなく支援していくという視点が欠けているのではないか。

幼保小の学びの連続だけでなく、小中の連携、中高の連携、高大の連携、またこれらを包括的に取り扱う多角連携の視点も必要なのではないか。「大学都市神戸」の特徴を活かし、新たに形成された「産官学プラットフォーム」や既存の「大学コンソーシアムひょうご神戸」などとも連携した「未来人材育成エコシステム」を形成していくことが必要ではないか。それには、博物館や科学館などの社会教育施設の活用や、それらに携わる学芸員などや学校教員、大学教員、産業界でのアウトリーチ活動の担い手なども含めた人的なネットワークの形成を明示的に目指したらどうか。

「社会とつながる探究的な学びの充実」という点が基本政策1の重点施策に挙げられているのは評価できる。しかし、「社会とつながる」と「探究的な学び」の関係の仕方が曖昧で、魅力的なメッセージとはなっていない。未解明の課題を自身で設定してそれをとことん追究して確実で価値のある解決を得る過程を学ぶ探究学習と、課題を設定する際に、現在の世界や身の回りの社会にどのような問題があるのかを見据える視野を持つことは、二つの異なることであり、それぞれを徹底しながら、それらを有機的に結びつけるやり方を実践的に学ぶことに価値があると考えます。「社会とつながる探究的な学びの充実」という表現では、それが曖昧になっておりインパクトがないと感じる。

基本政策2（一人ひとりに応じたきめ細かな支援）について。

一人ひとりに応じたきめ細かな支援を実現するには、学校が児童・生徒にとって心理的に安全な場所であるだけでなく、教員にとっても心理的に安全な場所である必要がある。そのためには、学校にありがちな（特に教員間や教員と管理職の間でありがちな）上位下達的なカルチャーを廃絶し、教員同士、教員と生徒間、生徒同士で忌憚のない意見を言い合える環境の形成を目指すことを明示したらどうか。

重点施策に「外国人児童生徒等に対する支援の拡充」を挙げている点は評価できる。特に、地域の企業、大学、研究所で働く外国からやってきた人々が、安心して生活できるように、より積極的な施策を展開するとともに、そのことが、海外に向けてよい評判として伝わるようにすると良いのではないかと。このことは、基本政策3とも関係する。神戸市が外国に持つオフィス（シアトル、その他）を通じて、外国の高度職業人が、家族と共に来日し、神戸で働くことに魅力を感じるようにするための施策を積極的に展開したらどうか。

基本政策3（安全・安心で過ごしやすい環境づくり）について。

学校における上位下達カルチャーの廃絶を明示することは、基本政策2への意見で書いた通りである

ここでは、2023年6月に閣議決定された「教育推進基本計画」で提示している「ウェルビーイング」の概念に触れ、自尊感情や自己効力感などの獲得的要素とともに利他性・協調性などの協調的要素を同時に併せ持つ「日本社会に根ざした」ウェルビーイングの概念を明示したらどうか。

重点施策に「ICT学習環境の充実と教育データの利活用に向けた環境づくり」を挙げている点は評価できる。ここでの「環境」には、それを支える人々が含まれることも明示したらどうか。充実したICT学習環境を形成するには、コンピューターやネットワークなどの物理的な環境だけでなく、そのインフラを支える人員、それを支える教員群、それを支える教育委員会事務局における情報リテラシーの重要性を明示したらどうか。あわせて、情報セキュリティ・情報倫理や個人情報の取り扱いの厳格さも明記したらどうか。これらは、ChatGPTなどの生成AIの活用が飛躍的に増大すると考えられるこれからは、特に重要になると考えられる。これについては、基本政策4への意見で書いたように、小項目ではなく、教育DXの推進とあわせて基本政策の一つに格上げしたらどうか。

	<p>基本政策4（子供に向き合い寄り添える学校づくり）について。</p> <p>子供に向き合い寄り添える学校づくりには、基本政策2、基本政策3へのコメントで指摘したように、学校における上位下達カルチャーを廃絶し、心理的安全性が確保される職場づくりがまずは重要ではないだろうか。それ無くしては、個別の種々の対策群だけでは効果が少ないと考えられる。</p> <p>教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進については、国の「教育振興基本計画」でも基本方針の1つに位置付けられているように、ここに小項目としてあげるのではなく、基本政策の1つとして、大きく取り上げたらどうか。DX人材育成だけでなく、教育データの標準化、基盤的ツールの活用、教育データの分析・利活用の推進、デジタルの活用とリアル活動の最適な組み合わせの開拓、など、種々の重点項目が挙げられるだろう</p> <p>基本政策5（地域とともにつくる開かれた学校）について。</p> <p>開かれた学校を地域とともにつくることは重要だが、学校だけが教育の場ではなく、街の中や郊外など至る所が学びの場である。それを可視化して連携するには、学校種や組織を越えた人的なネットワークを形成し、地域の人材育成ビジョンについて定期的に意見交換する機会を形成することが必要ではないだろうか。「企業・団体・地域等との連携・協働による多様な学びの提供」、「社会教育施設等を活用した豊かな学びの充実」、「市長部局や大学等との連携による放課後の子供の居場所づくり」のためにも、まずは、それぞれの組織（企業、団体、地域、社会教育施設、市長部局、大学、研究所等）を横断して連携するための人的ネットワークの形成が非常に重要になるに違いない。そのようは「未来人材育成エコシステム」の形成を明示的に謳ってはどうか。このような広い意味での教育に関して、どこに誰がいて、どのようなこと目指して何をしているかを相互に知り、情報交換するような場の実現を目指したらどうか。</p> <p>「神戸の教育の効果的な情報発信」は、国内にとどまらず、海外に向けても積極的に発信し、国外の高度有能人材を神戸の地に招き入れ、また定住したくなるような町づくりを積極的に展開してはどうか。</p> <p>基本計画の全体について。</p> <p>全体として、「教育振興基本計画」という大きな構えの割に、内容は既存の「学校」の改善という枠組み内に留まっているという印象を受ける。時代の大きな転換点の中で、地域の種々のステークホルダー（児童生徒、教員、学校、社会教育施設、大学、企業(business and industry)、研究所、団体など）が連携して地域の未来人材を育成するにはどうしたらいいか、各方面の知恵を結集して探っていく体制を、5年に1回の基本計画へのパブリックコメントにとどまらず、定期的に継続する場を形成してほしい。それを通じて「未来人材エコシステム」の形成を目指してほしい。</p> <p>博士の学位の保持者の積極的な登用</p> <p>学校教育において探究活動の必修化に伴い、教員に求められる資質や教育行政の推進の仕方の転換が求められている。この状況において、博士の学位を有し研究活動の経験のある人材を、学校教育の現場や教育政策立案スタッフとして積極的に登用することとし、そのことを広く広報してはどうだろうか。このような人材を広く全国から、あるいは全世界から神戸市に引きつけることは、教育以外でも市の文化的な側面でメリットが大きいのではないだろうか。</p>
50	<p>教育ビジョンの内容はとても良いと思います。</p> <p>自他共に大切にしつつ個性を引き出す。子供、教職員、保護者、そして地域のことまで考えられていて良いと思います。</p> <p>アンケートの中に学力の向上や体験などを子供も保護者も希望されている。</p> <p>以上の内容を実現するには、学校そのものを小規模化して行く方が子供たちのストレスも少なく困っている方のすくいあげができることと体験が全員思うようにできて全体の学力の向上につながり不登校の子供も減らせるのではないかと思う。実際、先生の負担も減ると先生も伸び伸びと指導をされているように感じとれます。</p> <p>大人数での体験は市内で企画をして学校間で行う。</p> <p>今ある小さな学校は残し地域との連携で体験を充実していくことで、温故知新で心身の豊かな子供をみんなで育ていけるかと思う。</p>

51	<p>・基本政策4を進めるためには、立派な計画以上にゆとりある人員配置が必要である。学生への育成支援にも力を入れる必要があるのではないか。</p> <p>・学校規模の適正化による教育環境の向上は、学ぶ子供目線で進める必要がある。小規模であっても、通いやすく愛着ある地域の学校園でこそ何より安定して学べる。数字や条件で判断すべきではない。</p> <p>・幼児教育の充実と幼保小の円滑な学びの接続が重点施策としてあがっているが、神戸市として今後さらに重点的に取り組もうとしているにも関わらず、同時期に、神戸市立幼稚園の再編計画として多数の幼稚園閉園があがっていることに矛盾を感じる。重点施策として力を入れる時だからこそ、公立幼稚園が中心となって神戸市の公私の幼児教育の充実と幼保小の円滑な学びの接続を推進できるよう、公立幼稚園の教育充実に力を入れて注ぐべきではないか。</p>
52	<p>「2 教育ビジョン 自他を大切に 自ら考え 未来をつくる」および基本政策1~5を実現するにあたり、甚だ僭越ではございますが一案をお送りさせていただきます。まず最も大切なのは、主役は子供たちであるのに、いつも子供の考えを聞かず大人だけで議論をして決定、子供をそれに従わすという構造がもう限界であると感じます。また、次に子供が長時間過ごす学校現場の先生方も、指針に従う事が多すぎて、なかなか本来お持ちのご自分達の教育を実行しづらい環境にあられるのではないのでしょうか？（と申しておきながら、ここで現場を直接知らず、一保護者に過ぎない私が案をお送り致しますのは甚だ矛盾が生じますが、声の1つ程度にお受け止め頂ければ幸甚に存じます。）</p> <p>ここで下記の3つの環境創造をご提案いたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員自らが、各々教員になってやりたかった事をしてもらえる環境を作る 2) 生徒自らが、各々学びたい方法を選べる環境を作る 3) 保護者らが、子どもの成長をゆとりを持って見守れる環境を作る <p>そのために、</p> <p>Aタイプ) 従来通りの学校</p> <p>Bタイプ) 民間の動画授業などを活用し、カリキュラムには従うが教員は教壇に立たず個々のサポートを行う学校</p> <p>Cタイプ) カリキュラムには従うが、指導方法は全て教員に一任する学校</p> <p>を設け、教員も生徒（もちろんご家族でよくご相談していただいて）も自ら選んでその学校に通えるようにするなどいかがでしょうか。</p> <p>そのために、例えば東灘区（7校）の中学校であれば、3グループに分け</p> <p>東グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 本庄中学校・・・Aタイプ 本山南中学校・・・Bタイプ 本山中学校・・・Cタイプ <p>西グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚崎中学校・・・Aタイプ 住吉中学校・・・Bタイプ 御影中学校・・・Cタイプ <p>六甲アイランド</p> <ul style="list-style-type: none"> 向洋中学校・・・A,B,C混在タイプ（教室で異なる） <p>さらに生徒は一月毎に通う学校も変更できるようにすればいかがでしょうか。</p> <p>教員には希望を優先ではあるものの、生徒のニーズに応じてフレキシブルにご対応いただく（その分、現場での裁量を与える）のはいかがでしょうか？</p> <p>定期テストも民間のテストを活用されてはいかがのでしょうか？</p>

	<p>また、学びや人間関係が一連のものとなり、保護者らが子どもの成長をゆとりを持って見守れるよう小中高をもっと繋がりのあるものとすべく、県や私学とも協力し</p> <p>中、高は、大学のように年に何度かオープンスクールを開いてよく学校を理解してもらったり</p> <p>高校入試は「内申＋当日試験」ではなく、何日間かの模擬授業・試験・面談（過去のオープンスクールでのコミュニケーション含む）などを通じて合否を判定して頂ければ進学後の生徒と学校のミスマッチも減り、充実した生活を送りやすくなることも期待できます。</p> <p>また、世論には、あまり短期的な時間軸で「成功」「失敗」を議論しないよう、キャッチーでチャーミングなスローガンでも募集してはいかがでしょうか？</p> <p>（一時期の「ゆとり教育」が失敗であった という言われ方もありますが、そんな事を言い出すと、今の40代50代を生み出した教育もとても成功だとは言い難いかと・・・ただ、良いこともあれば、その反対の側面もあり、それは時代や世界環境とともに見え方が変わるだけかと・・・今になって感じます）</p> <p>と、自由にご提案させて頂きましたが、これも人にやらされるのでは甚だご迷惑かと存じます。</p> <p>どうぞ現場の子供たち、教員の方々が、自らどうしたいか、考え実行できるよう、現場のお声を聞いてあげて頂きたいと切に願います。</p> <p>乱文、大変失礼いたしました。</p>
53	<p>私は不登校生徒の保護者であり、不登校の親子を支援する活動に携わっているため、不登校に絞って意見を述べます。</p> <p>1「行きたくなる学校づくり」素晴らしいと思います。</p> <p>2多様な学びの場の確保等による不登校支援の充実、これも良いです。</p> <p>1は、不登校を出さない、あるいは不登校の子どもが戻りやすい学校づくりと評価できると思います。これが少しずつでも成されれば、不登校児童・生徒は減っていくでしょう。</p> <p>2は、あいにく学校に来られなくなった子どもに対する支援でしょうか。不登校特例校を作る計画かと思いますが、他県での取り組みについて聞く限りでは、不登校の子どもにとっては受け入れ難い縛りが色々とかかかっていて利用するのが難しいなどという場合もあるそうです。先生方が不登校について正確で実践的な知識を得て、当事者である子どもや保護者の意見を聞きながら、どのような支援が必要でどのような支援は不要だけでなく親子を傷つけ学校からより一層遠ざけることになるのか、理解なさってから対応に当たっていただきたいと要望いたします。</p> <p>「校門タッチ」「電信柱を数える」「わがままとみなして引きずってでも連れていく」といったような指導を先生方から為されないよう、また保護者がしていた場合は児童・生徒の心身に悪影響があることを伝えられるよう、先生方に広く不登校の正確な知識が広まるようお願いいたします。</p>
54	<p>第4期神戸市教育振興基本計画（素案）の策定について、下記の意見を申しあげます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育法第3章第22条においても、「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うもの」と述べられているにも関わらず、今後5年間の神戸市の教育を示す第4期神戸市教育振興基本計画に、「幼児教育の充実と幼保小の円滑な学びの接続」の1か所しか幼児教育が述べられていないことはとても残念に思う。 ・保護者アンケートにおいても、回答された全保護者の約1割にあたる8.4%の保護者が幼稚園の保護者であるにも関わらず、幼児教育に関することが述べられていないことを保護者もどのように感ずるだろうかと思う。また、全て「学校」という表記であり、せめて「学校園」とした表記で、学校教育が幼稚園からスタートすることをしっかりと位置づけすべきではないかと思う。 ・基本政策1～5において、それぞれに幼児教育の視点をせめて1つは入れてほしいと思う。例えば、基本政策2であれば、早期（幼児期）からの特別支援教育の充実であったり、基本政策3の安全・安心で過ごしやすい環境づくりは、まさしく環境を通して行う教育である幼児教育において、重要な政策であるため、「学校園」と表記していただくことで、幼児教育における望ましい環境づくりについて考えていく教育を行うことができると考える。 <p>神戸の子供たちが心豊かに健やかに今後も育つことができるように、私たち幼児教育に携わる者も、全力でがんばっていきたいと思いますので、どうぞよろしく願い申しあげます。</p>

55	<p>いつもご尽力いただきありがとうございます。新たな教育振興基本計画を拝見したところ、人格形成の土台を支える大切な役割である乳幼児期の教育について何も述べられていないことに驚き、危惧を感じました。施策1の重点施策の一つのみ幼児教育の充実云々と記されていますが、主体性を育むだけが幼児教育ではありません。他のどの施策にも乳幼児期の教育は重要な役割を果たしています。</p> <p>また幼、保、小、中が連携し子供の学びを長いスパンで保証していくことが今後重要になっていくということが全く書かれていません。どうか、乳幼児期の教育も含めて施策を考えていただきたいです。</p> <p>「子どもが主役」「一人一人が大切」「一人一人に寄り添った」と当たり前のような漠然とした文言が記されているだけで、これまでと何ら変わらないようにも思えます。一人一人の子供に寄り添った教育をするためにどのような施策が必要なのかもう少し具体的に述べていただきたいと思います。「特別支援教育」についても書かれていますが、発達障害児の受皿でもある公立幼稚園存続の意義も重ねて考えていただきたいです。よろしくお願いいたします。</p>
	<p>◎基本政策2について</p> <p>「いじめ」事態を神戸市・市教育委員会は隠さず事実確認をして報告できるのか疑問に思います。きれいな言葉を並べても、本気で改革したのか「本気度」を見たいです。</p> <p>「防止」は、もちろんですが、起こってしまったからの対応も考えるべきでしょうか？</p> <p>「教師」が「教師をいじめた組織」で、それを防げなかったのを忘れていません。</p> <p>その後も幾つかの教育委員会がらみでニュースになったこともあり、今回の提案も、うわべだけの言葉で改革の本気度わかりません。</p> <p>私が考える「教員/教師」は、子供たちの模範になれるような人材を求めます。</p> <p>◎基本政策3について</p> <p>私の子供に聞きましたが、「給食はおいしい？」</p> <p>「記憶にない・美味しくない」この言葉が出てきました。</p> <p>私の子供には「美味しくない給食」と評価されています。</p> <p>市内全域の子供たちに直接聞いたことがあるのでしょうか？</p> <p>「魅力化」とは何でしょうか？</p> <p>食べた子供達が全員美味しいと思うことですか？</p> <p>学校の「給食の質」の向上は何が必要なのでしょう。</p> <p>「食育」の推進とは？</p> <p>お米を食べながら「牛乳」を飲むのは食育でしょうか？</p> <p>「カルシウムの摂取」が手っ取り早いのはわかりますが、大人になって、「おにぎり」「かつ丼」食べて一緒に「牛乳」を飲みますか？</p> <p>決まったメニューで出されたものを黙って食べる食育なのでしょう。</p> <p>もう一度見直しをしませんか？</p> <p>法律で決まっているのは理解できますが、作った時代といまは違います。</p> <p>時代に合わせて変えていくのが大人の役目だと思います。</p> <p>子供達に給食メニューを考えさせることも食育ではないでしょうか。</p> <p>「押しつけ型の給食」「大人目線の給食の考え」を変える時期に来ていると思います。</p> <p>コロナ前には「学校の給食試食会」がありましたが、正直驚きました。</p> <p>美味しいより、「この量で子供たちは足りているのか？」</p> <p>私の小学校時代と給食と比べてしまいますが、「質の低下」びっくりしました。</p> <p>他の学校給食は非常に美味しそうに見えるのは私だけでしょうか？</p> <p>過去に販売された「神戸市給食」の本も拝見しましたが、「外向きだとこんなに違うのか…」と感じました。</p> <p>「給食の魅力化」を決めるのは、子供達（食べる人）が考える食育プロジェクトとして考えてはどうでしょうか。</p> <p>大人が決める給食よりも子供たちが考えて、自分たちが食べる給食を作る。</p> <p>子供達も「食」についても学べると思います。</p> <p>そして「給食無償化」をしても美味しくなければ「無駄」です。</p>

子供たちが美味しく食べる給食でなければ、大人達だけの自己満足な「給食無償化」プランです。

◎つぎに下記の3項目について。

- ・学校施設の安全・安心確保と機能向上
- ・ICT学習環境の充実と教育データの利活用に向けた環境づくり
- ・学校規模の適正化による教育環境の向上

◎学校施設の安全・安心確保と機能向上について

56 市内の小学校共通でいえることは少ないですが、耐震作業して延命した校舎をいつの時点で更改作業（建て替え）をするのかを決めていますか？

古い校舎に最新のIT機器を導入しても限界があると思います。

特にプールの問題、プールの授業もまともにできない小学校や中学校はプールの施設も老朽化している場所が多いです。近隣の騒音対策やプライバシーを考えたら屋上プールとなるとと思いますが、まともに出来るようにしてあげてください。

「改築や改装」だけで無駄な予算を使うなら一気に建て替えをして教育環境改善を図れるのではないのでしょうか。

子供の少子化など問題で市立の公共施設閉鎖もあるなかで、建て替えなしでは語れないことも、あるのではないのでしょうか？

◎通学路の安全対策の推進について

通学時の「歩行者優先」を行政と警察と連携をしなければうまくいかないと思います。

「交差点では車がないことを確認して渡りましょう」ではないと私は思います。

「交差点では車が止まることを確認して渡りましょう」だと思います。

地域コミュニティで頑張って、さらに行政と警察との協力をやることで「安全な通学路」をできると思います。

私は仕事で海外赴任をすることもありました。

「歩行者優先」を遵守する国が多い中で、日本は「歩行者が止まる」ことが前提の安全教育をしている気がします。

いわゆる「車優先」「歩行者軽視」だと思います。

◎基本政策4について

長年問題となっている「教員のDX」が必要だと思います。

労働時間の適正化をできるかが問題です。

今までは「子供に教えるのが好き」だけで頑張れたけど、時代とともに教員の働き方も変える時期です。

働いた分の対価を支払うのは当たり前で、給与の変更が難しいのなら、特例として時間外の手当を支払うなども考慮すると、働き方改革にもつながると思う。

「安い給料で拘束時間長くて・・・」と思うのと、

「時間外手当もらえるから頑張ろう・・・」と思えるのも改革の一つだと思います。

これにも言えるのが、「労働環境の改善」

老朽化した校舎より、新しい校舎で仕事をしたいものですね。

◎基本政策5について

部活顧問も外部委託するのもいいと思いますが、具体的にどのように変わるのかが私たちには解りづらいです。

外部委託した場合の、対外試合の引率や練習試合も委託者が引率していくのでしょうか？ また、部活でケガをしてしまった時の処遇はどうなるのか、部活中の成績のつけ方など、気になることが沢山あります。

教員を目指している学生を活用するプランもあるとは思いますが。

最新の科学的なスポーツ理論とトレーニング理論を実践できるのは現役の学生たちではないのでしょうか？

YMCAやスポーツクラブに頼るのもいいですが、（・市長部局や大学等との連携による放課後の子供の居場所づくり）各部門と連携できる仕組みを立案してほしいです。

今後、市内での学校を建て替えや新しく作る時は「小中一貫校」を作ることが良いと思います。

工夫さえすれば、現状の小学校用地だけでも建築は可能だと思います。

予算的にも2個作るより1個にした方が安くなるはずです。

グラウンドも狭い小学校もありますよね。

遊具を撤去して仮設校舎まで作っても根本的な解決になりません。

下水処理も限界にきている学校もあると聞きました。

子供達の為にも対策をしてください。

いろいろな不手際が兵庫県内各地の教育委員会にありましたが、私の子供は兵庫県で教師になることを決めました。

小学校時代の高学年の担任に影響を受けたみたいです。

なので、子供の為にも、未来の神戸市の子だもたちの為にも、より一層厳しいことを言い続けたいと思います。